

1 アクションプラン4年目の取り組み

令和3年度からスタートしたアクションプランは、令和6年度で4年目の取り組みを終了しました。アクションプランでは、「住民の安心を支える消防力の充実・強化」を基本理念とし、4つの基本目標に基づいた実行計画に取り組んでいます。

令和6年度は27項目の実行計画に取り組み、災害現場での安全管理体制の強化、ドクターカーとの連携など消防力を強化するための取り組み、職員に対しては外部機関への研修派遣やハラスメント対策など、組織力の向上及び職員の意識改革を図りました。

年度末に開催した外部委員を含めた進捗管理委員会での総括評価は「計画どおり進んだ」との評価となり、職員全員が共通認識を持って目指す姿に向かって進んでいます。

2 計画期間と総括評価

西暦 (評価年度)	2021 (令和3年度)	2022 (令和4年度)	2023 (令和5年度)	2024 (令和6年度)	2025 (令和7年度)
総括評価	 計画どおり 進んだ	 計画どおり 進んだ	 計画どおり 進んだ	 計画どおり 進んだ	

3 進捗管理の実施

令和6年4月	事業計画表作成
5月	事業計画ヒアリング
9月	中間進捗管理
令和7年2月	年度末進捗管理
2月26日	進捗管理委員会
3月12日	事業発表会



《外部評価委員》

静岡県消防学校宮田副校長

《内部評価委員》

消防長、消防次長、総務課長



アクションプラン 2025 進捗管理委員会

4 主な実績

基本目標1 火災・救助活動体制の充実

・安全管理体制の強化

全ての火災出動において検証を行い、活動内容や資機材の必要性などについて検討を行いました。

災害現場での的確な判断力や効果的な対応力を身につけるため CRM（安全な運航のために利用可能な全ての人的資源や情報などを有効活用するという考え方）研修を開催しました。

・訓練等への ICT 利活用

消防隊員の訓練に関する ICT の利活用について、アンケートによる情報収集を行いました。

全国から約 100 消防本部の情報を収集できたため、この情報を基に袋井消防本部に取り入れていくかについて検討を進めています。

基本目標2 救急業務の更なる高度化

・救急の日のイベントとして「救急フェスタ」を開催

未就学児とその保護者を対象に救急フェスタを実施し、胸骨圧迫の体験や KYT による事故防止など体験ブースを設け、住民から大変好評でした。

・#7119 事業の広報活動を実施

令和6年10月から県内で導入された #7119(救急安心センター事業)について、住民に活用していただけるよう、県や市町担当者とともに広報活動を実施しました。令和7年度からは24時間365日対応になることから更に広報活動を継続して実施していきます。

基本目標3 火災予防対策の推進

・子どもの成長段階に合わせた防火・防災教育

昨年度までに作成した KYT 資料を小学生の施設見学や中学生の職場体験などへ組み込み、防火・防災教育を効果的に取り入れていきます。

・火災調査技術の向上

静岡県西部地区消防長会火災調査発表会で管内の火災調査事例を発表しました。火災件数が減少している中、近隣消防本部と調査経験を共有し技術向上に努めています。

基本目標4 職員のモチベーションアップ

・若手職員に S R（スタディローテーション）研修を実施

災害現場だけでなく消防業務全体を把握することや将来のキャリア形成支援を目的に S R 研修を実施しました。消防予算、入札、契約事務など消防本部業務として行っていることを消防署勤務の若手職員への研修として実施しました。

・外部への研修派遣

消防大学校、県消防学校だけでなく行政職員として必要な知識を身につけるため、市町村アカデミーや市町職員広域研修など一般行政職員を対象とした研修へ積極的に派遣しました。

1 火災・救助活動体制の充実

○取組の評価								
重点項目	1 消防組織・消防体制の充実	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	安全管理体制の強化	40% (50%)	80% (80%)	100% (100%)	継続	継続		
実行計画	適正な出動体制の確立		20% (20%)	40% (40%)	100% (70%)	(100%)		
実行計画	業務内容のスクラップ&ビルド		40% (40%)	100% (70%)	(100%)			
重点項目	2 教育・訓練体制の整備	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	人材育成の強化	15% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)		
実行計画	基本消防戦術の確立	15% (20%)	60% (60%)	80% (100%)	100% (100%)			
実行計画	車両操作技術の向上		30% (20%)	60% (60%)	90% (90%)	(100%)		
重点項目	3 外部機関との連携強化	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	大規模災害対応能力の強化	30% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	90% (90%)	(100%)		
重点項目	4 ICTの活用推進	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	訓練等へのICT利活用				50% (50%)	(100%)		

※カッコ内は達成度の目標値

◎取組評価基準

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------



【写真1】袋井市消防団本部員への消防災害対策本部運営訓練



【写真2】磐田市、掛川市の特別救助隊との合同訓練

○令和6年度の実績	
重点項目	1 消防組織・消防体制の充実
【継続】	全ての火災出動後に活動検討会を実施し、活動の振り返りや安全管理体制について話し合いを行い、職員の安全管理への意識向上を図った。(1-1、1-2)
【継続】	令和6年度から変更した出動体制と出動範囲について効果確認を行い、適切な運用ができていることを確認できた。なお、令和7年度から運用を開始する新消防指令システムへ反映することができた。(1-2)
重点項目	2 教育・訓練体制の整備
【継続】	消防本部職員及び袋井市消防団本部員を対象に消防災害対策本部の運営説明会を実施し、大規模災害時の本部運営について説明及び訓練を行った。【写真1】 磐田市、掛川市の特別救助隊との合同訓練をはじめ、静岡県消防防災航空隊及び浜松市消防航空隊との合同訓練及び研修会を行い、ヘリ事案対応力の強化及び災害対応力の向上を図った。(2-1)【写真2】
【継続】	タンク・ポンプ車連携の5つの体制について本署職員へ教育・訓練を実施したことにより、職員間における消防戦術に対する共有化、実火災時において円滑な対応を図ることができた。(2-2)
【新規】	鈴鹿サーキットでの緊急自動車運転安全運転研修へ2名派遣、来年度に職員全体へフィードバックを実施するための協議を行った。。(2-3)
重点項目	3 外部機関との連携強化
【継続】	消防災害対策本部と派遣支援本部の事前配備態勢時のマニュアルを策定し、袋井消防本部内の連絡・情報収集体制を確立した。(3-1)
重点項目	4 ICTの活用推進
【継続】	全国消防長会情報管理システムのアンケートを活用し、全国の消防本部へICTやDX等を活用した取り組みについて調査を行った。(4-1)
○令和6年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）	
重点項目	1 消防組織・消防体制の充実
・現場の安全教育に関する研修を継続して実施することや安全管理要員の配置について継続して検討をしてください。また、資器材の計画的な整備及び更新を実施し、現場活動の安全確保に努めてください。 ・この取り組みで確立した出動体制は現在の車両や人員の配置により、確立されたものです。今後、想定される車両の更新や人員の増員などにより、変更の必要が生じた場合には対応できる体制をとってください。 火災活動検討結果報告書の作成にあたっては自身の活動を振り返る場として有効に活用できるようにしてください。	
重点項目	2 教育・訓練体制の整備
・訓練や研修会を通じて人材育成が計画的に行われています。浜松市消防局ヘリとの合同訓練は新たな試みでありました。訓練後実災害において浜松市消防局ヘリと連携する事案も発生していますので、今後も訓練を計画することと、他機関との連携訓練も検討してください。	
重点項目	3 外部機関との連携強化
・本年度は大雨や南海トラフ地震臨時情報発表により消防災害対策本部配備態勢を執る事象が複数回発生しました。今後発生が予想される南海トラフ地震においても、組織としてしっかりと機能する災害対応能力を付けておく必要があります。本年度の実行計画と実際の配備態勢の振り返りを行い、さらに事業を推進してください。	
重点項目	4 ICTの活用推進
・全国の消防本部にアンケートを実施して、約100消防本部の情報を収集できたことは、今後の本事業の参考となるデータだと思います。このデータを十分に活用して袋井消防本部の課題を解決するためのICT活用についての研究を行ってください。	
○令和6年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・3年間のそれぞれの取組みの中で着実に実績を積み上げてきており、成果が出ていることが窺えます。消防隊員は基本戦術がしっかりしていると活動しやすいため、とてもよい取り組みだと思います。ICTの活用については独自のシステムの構築であるとか大きく広げすぎないで、既存のものを活用していくことでも十分に良い取組みができると思います。	

2 救急業務の更なる高度化

袋井消防本部アクションプラン2025
令和6年度取組結果・評価シート

○取組の評価

重点項目 1 救急体制の強化		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 1-1	感染防止対策等の強化	50% (50%)	80% (80%)	100% (100%)				
実行計画 1-2	救急訓練教育体制の充実		40% (40%)	70% (70%)	100% (100%)			
重点項目 2 応急救護に関する知識技術の普及		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 2-1	外部団体と連携した普及啓発		30% (30%)	60% (60%)	100% (100%)			
実行計画 2-2	子どもたちへの普及啓発			30% (30%)	60% (60%)	(100%)		
重点項目 3 医療機関等との連携		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 3-1	協力体制の充実			50% (40%)	80% (70%)	(100%)		

※カッコ内は達成度の目標値

◎取組評価基準

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------



【写真3】救急フェスタ①



【写真4】救急フェスタ②



【写真5】ドクターカーとの連携訓練



【写真6】看護師による12誘導心電図研修会

○令和6年度の実績

重点項目 1 救急体制の強化	
【継続】	職員のレベルに応じた内容を的確に捉えた教育訓練ができ、個々の知識・技術の向上に繋げることができました。また、救急出動件数が年々増加するなかで、毎朝点検時、隙間時間、救急出動引揚時ブリーフィング等、時間を有効的に活用し効率良く実施することで教育体制の構築に繋がった。
重点項目 2 応急救護に関する知識技術の普及	
【継続】	・今年度から導入した「JRC蘇生ガイドライン2020」に合わせた、救命講習カリキュラムについて確認した。 119番通報訓練については、令和7年指令センター更新時に導入される、LIVE119に備えたものであり、受講者から「非常に良かった」との評価を受けていることが分かった。 ・外部団体と連携し、eラーニングを活用した普通救命講習を開催した。 eラーニングを導入した新カリキュラムを活用し、一般公募とは別枠で保健予防課職員5名、消防団員97名に対して普通救命講習を実施した。
【新規】	・令和6年9月7日に救急の日に合わせて、未就学児を対象としたバイスタンダー養成の取組みとして14組（43人（内子ども25人））を対象に救急フェスタを実施した。対象が未就学児であることから、救急車の体験乗車などを取り入れながら、未就学児でも救急に関することに興味をもってもらうよう、胸骨圧迫の体験やKYTによる事故防止など、工夫をした体験ブースを設け実施することができた。【写真3,4】
重点項目 3 医療機関等との連携	
【新規】	・中東遠総合医療センターのドクターカーとの連携については、実際の現場活動から出た課題について合同検証会及び合同訓練を実施し、12誘導心電図の積極的活用を活動の中に取り入れた。また、救急救命センターの救急認定看護師を講師として招き、12誘導心電図を題材とした救急研修会を開催し、難易度の高い心電図の知識を深めることができた。【写真5,6】

○令和6年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）

重点項目 1 救急体制の強化	
・内部に限らず外部とも連携し教育が実施されています。また教育訓練内容のアンケートを実施したことで職員各々のレベルに合った教育を実施できています。職員が住民の視点に立ちよりレベルの高い救急業務を提供できるように、個々の対応能力向上に資する教育を今後も実施してください。	
重点項目 2 応急救護に関する知識技術の普及	
・外部の協力団体と連携し、今後も指導員の育成に努めてください。また、救命講習や指導員の育成を実施する際には、LIVE 119や#7119などの紹介を含めて講習会を開催するなど迅速な消防活動につながる取り組みを行ってください。 ・本年度初めて救急フェスタを開催できたことは良かったと思います。小学生向けの講習カリキュラムでも低学年、中学年、高学年と各年代でバイスタンダーとしてできることは差があると思います。引き続き、より効果のあるカリキュラムとなるよう検討してください。	
重点項目 3 医療機関等との連携	
・積極的に管内医療機関等の会議に出席することで連携が図られています。また、他の行政機関との連携も行われており、袋井市は#7119の人口1万人当たりの利用率が県内で1位であり、これからも行政機関と十分に連携をとり事業を行ってください。	
○令和6年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・3年間で様々な取り組みが軌道に乗ってきている様子が窺えます。新しい取り組みも必要ですが、子供たちへの普及に関し、住民に理解してもらう方法として、毎年、同じ取り組みを繰り返し、この時期に消防署ではこんなことをやっているという意識の刷り込みを行うこともよいと思います。	

3 火災予防対策の推進

○取組の評価							
重点項目	1 住宅防火対策の推進	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価 委員会評価
実行計画	SNSを活用した戦略型火災予防広報の推進	20% (20%)	50% (40%)	80% (60%)	90% (80%)	(100%)	
実行計画	外国人に対する防火・防災知識の育み	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)	
実行計画	子どもの成長段階に合わせた防火・防災教育の展開	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)	
重点項目	2 査察執行体制の強化	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価 委員会評価
実行計画	定期査察執行マネジメント体制の構築、査察推進状況の共有化	40% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)	
実行計画	予防スキル向上を目的とした若手職員育成の取組（資格者章交付）	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)	
実行計画	査察指導基準の公表、統一した行政指導の実現（目標見直し再設定）	50% (50%)	70% (80%)	100% (100%)	50% (50%)	(100%)	
重点項目	3 火災原因調査体制の強化	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価 委員会評価
実行計画	指定火災調査員に対する研修制度及び火災調査技術研修会の実施	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)	

◎取組評価基準 ※カッコ内は達成度の目標値

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------



【写真7】防火デザインポスター入賞作品を活用したカレンダー



【写真8】火災調査発表会での事例発表

○令和6年度の実績	
重点項目	1 住宅防火対策の推進
【継続】	第3回の防火デザインポスターコンクールは中学生部門で36作品、高校生部門で119作品の応募があった。また、新たな取り組みとして、市民・町民へ防火意識の高揚に繋がられるよう、防火デザインポスターコンクールでの入賞作品を活用した、防火ポスターカレンダーを作成し、事業所への配布を実施した。(1-1)【写真7】
【継続】	幼稚園は花火教室、小学生は施設見学、少年消防クラブ、中学生は職場体験でKYT事業を実施した。幼稚園及び小学生には、袋井消防独自のKYT資料のパワーポイントを使用し、各火災危険箇所の火災現象動画で理解を深めてもらうことができた。中学生の職場体験では、少人数（5人）で時間をとることができたので、KYT資料パワーポイント及び4ラウンド法の両方を使用した。4ラウンド法でのグループ討論は活発に意見を出し合ってもらうことができた。(1-3)
重点項目	2 査察執行体制の強化
【継続】	・違反是正担当者を含む予防担当者会議を実施し、重大違反や公表対応などの情報共有及び進捗管理を行った。(2-1)
【継続】	・収集した県下消防本部の重大違反対象物に対する措置状況と、当本部の重大違反対象物に対する是正実績（査察マネジメント状況表）を基に、職員が発見する重大違反の傾向や、その是正方法の傾向について整理した。 ・アクションプランの3事業（新任副士長研修、予防課受託研修、新任火災調査員研修）を整理し、総務課企画のスタディローテーション事業への統合や研修カリキュラムの調整を行った。(2-2)
重点項目	3 火災原因調査体制の強化
【継続】	・管内での火災の刑事裁判対応経験から、今後の火災調査業務の進め方や調査書類の作成についての課題の整理を行った。 ・西部地区消防長会火災調査発表会 1名発表、聴講10名(3-1)【写真8】
○令和6年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）	
重点項目	1 住宅防火対策の推進
・管内の各企業、事業所、幼保園等の外国籍の方に、火災や地震の災害知識、注意点などの教育事業は計画的に推進できています。また、これらを継続するとともに国際交流等関係機関との連携など研究して普及に努めてください。	
重点項目	2 査察執行体制の強化
・定期査察及び違反是正業務の進捗管理は各署に配置した違反是正担当者が中心となり、違反覚知から公表対応、改善まで査察規程及び各違反対象物の状況を考慮した是正体制が浸透しています。更に組織全体の査察状況、違反是正状況の共有化を図り、予防知識・スキル向上に努めてください。	
重点項目	3 火災原因調査体制の強化
・火災件数が減少している中、実戦で火災調査を経験できる回数は限られています。研修会などのOFFJTで得た知識を実際の火災調査現場で活かせるよう研鑽を重ねてください。	
○令和6年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・防火デザインポスターコンクール入賞者のカレンダーは作品を募集するだけでなく、広報素材として活用していくことがとても良い発想だと思います。 ・袋井市は外国人の割合が県内で多い方であるので、火災予防対策は必要だと感じます。外国人に対する対策は、県内ではなかなか進んでいないと感じています。袋井消防が先駆者となるような取り組みを企画してください。 ・違反是正では「改善してもらう」という職員の意気込みを感じます。職員のスキルの向上については、PDCAに沿ったとても良い分析ができていますので、計画とおり研修等を進めて下さい。	

4 職員のモチベーションアップ

○取組の評価								
重点項目	1 研修によるモチベーションアップ	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	外部講師による研修会の実施	20% (20%)	40% (40%)	70% (60%)	80% (80%)	(100%)		
実行計画	外部研修機関への積極的な派遣	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)		
実行計画	職場内研修制度の整備	50% (50%)	100% (100%)	継続	継続	継続		
重点項目	2 人事制度によるモチベーションアップ	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	職員定員管理計画の定期見直し	100% (100%)						
実行計画	外部への出向制度の検討				100% (100%)			
重点項目	3 モチベーションアップのためのしくみ整備	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	ハラスメント対策の充実	15% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)		
実行計画	消防広報業務の拡充	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)		
実行計画	業務スクラップ制度の整備	50% (50%)	80% (80%)	100% (100%)				
重点項目	4 管理監督者の育成	R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	外部講師による消防本部内研修の実施	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)		
実行計画	外部機関での研修受講	60% (50%)	100% (100%)	継続	継続	継続		
実行計画	人事評価制度の効果的な運用			40% (40%)	70% (70%)	(100%)		

◎取組評価基準

※カッコ内は達成度の目標値

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------



【写真9】女性活躍推進アドバイザーによる研修



【写真10】警防課職員によるS R研修

○令和6年度の実績	
重点項目	1 研修によるモチベーションアップ
【継続】	令和6年11月20日（水）に女性消防吏員活躍推進研修を開催した。《講師：熊本市消防局 林はるよ氏（総務省消防庁よりアドバイザーとして派遣）》 【受講者数】袋井消防本部 115名、近隣消防本部の女性職員 10名（1-1）【写真9】 【継続】SR（スタディローテーション）研修 対象者：副士長昇格者（0人）、士長昇格者（5名） 受講者数：副士長昇格者 なし、士長昇格者 3名 ※育休中、救命士養成中の職員は次年度に受講とした。 総務課、予防課、警防課の合同開催により1回（2日間）の開催で実施することができた。【写真10】
重点項目	2 人事制度によるモチベーションアップ
【継続】	過去に外部機関へ出向した実績のある職員や想定する出向先の職員と接する機会において、出向の経緯や出向先での業務内容、出向したことによる効果などの聞き取りを行い、派遣による効果を検討した。（2-2）
重点項目	3 モチベーションアップのためのしくみ整備
【継続】	・令和4年度・5年度に行ったハラスメントアンケートの分析・評価を行った。 ・ハラスメントに対する他組織の取り組み事例、有効な取り組みなどについて調査を行った。 ・ポジティブワード＆ネガティブワード体験（3-1）
重点項目	4 管理監督者の育成
【継続】	【女性消防吏員活躍推進研修】講師：熊本市消防局 林はるよ様（総務省消防庁より派遣のアドバイザー） 【対話スキル向上研修】マネジメント力向上及び部下との相互理解の促進を図ることを目的として実施 【マインドワーク研修】ストレスの仕組みや前向きに動けない人の心理の仕組みなど学ぶことができた。 【人事評価研修】評価者が適切かつ人材育成につながる評価方法を身に付けることができた。
○令和6年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）	
重点項目	1 研修によるモチベーションアップ
消防分野において、女性の力を最大限に活用して組織の活性化を推進することが重要課題であり、全国的に女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組を強化しているところです。女性消防吏員が生き生きと職務に従事できる職場環境づくりを、ソフト・ハード両面から支援する方策を検討することなど、職員の理解を深める良い機会でした。来年度以降も組織的に必要な研修を見極め、講師選定をしていけるよう継続して取り組んでください。（1-1） SR研修は、令和5年度に改定した人財育成基本方針に定められた計画であり、本格的に実施したのは今年度からで、まだ手探りの段階ですので、実施方法や内容について受講者からの感想や講師からの意見などを踏まえ、ブラッシュアップし、来年度以降の取組みに活かしてください。（1-3）	
重点項目	2 人事制度によるモチベーションアップ
外部への派遣は、人脈形成や情報交換はもちろんですが、コミュニケーション能力や能力アップができるメリットが期待できます。今後は消防の広域化など袋井消防の長期的な体制を考えた、職員派遣などについても検討してください。	
重点項目	3 モチベーションアップのためのしくみ整備
消防組織のハラスメントに関する不祥事は報道において、たびたび目にしており、常に意識をしていないといけなことです。ハラスメント対策は継続して実施していくことが重要であり、職員全員が心理的安全性が高く生産性の高い職場を目指し、取り組んでいけるよう有効な取り組みを模索してください。	
重点項目	4 管理監督者の育成
市役所職員合同でマネジメント力の向上、部下との相互理解の促進、ストレスの仕組みや前向きに動けない人の心理の仕組みなど、管理監督職として必要なスキルについて研修を企画してくれました。これらのスキルは管理監督者として、ハラスメント対策など職場環境の向上にも影響をする大切な能力です。来年度以降も市の研修担当と協力し計画を進めてください。	
○令和6年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・外部機関へ派遣することは職員にとって、大変ですがよい刺激になると思います。 ・研修、訓練のボリュームが多いと感じる。本当に必要なものを選び、実施した方が効果的なこともあります。研修疲れとならないようにしてください。 ・SR研修は愛知県豊橋市が同じような取り組みをしています。実施方法などを参考にしてみてもどうでしょうか。	